第4回 精華町地域福祉計画策定委員会 議事録

日時:令和6年2月27日(火) 13:30~14:30

会場:精華町役場 6階 審議会室

【出席者】…(委員12名/18名 出席)

(50音順、敬称略)

大上 たえこ 精華町身体障害者協議会 会長
奥 和美 一般社団法人相楽医師会 精華班
齋藤 恵彦 せいか地域福祉ドットコム 会長
鈴木 圭吾 精華町老人クラブ連合会 会長
田中 智美 精華町ボランティアセンター運営委員会 委員長
檀上 幸裕 精華町民生児童委員協議会 会長
永井 元 社会福祉法人相楽福祉会 相楽デイセンター 施設長
野村 裕美 同志社大学社会学部 教授
早樫 一男 社会福祉法人盛和福祉会 山城こども家庭センターだいわ センター長
林 徹 精華町自治会連合会 会長
松本 雅和 けいはんな学研都市精華地区まちづくり協議会 副会長
山本 正來 社会福祉法人精華町社会福祉協議会 会長

【欠席者】

有城 義浩 精華町教育委員会 総括指導主事
喜多 俊夫 精華町消防団 団長
齊藤 裕三 社会福祉法人カトリック京都司教区カリタス会 高齢者総合福祉施設神の園 施設長
古海 りえ子 特定非営利活動法人みんなの元気塾 副理事長
吉川 尚美 一般公募
渡辺 一城 天理大学人間学部 教授

1. 開会

2. 議事

(1)パブリックコメントの結果について

事務局

- ・ 第4次精華町地域福祉計画(案)について、住民から広く意見を募集するため、令和6年1月10日(水)から令和6年2月9日(金)までの間、パブリックコメントを実施し、役場を初め町内の公共施設などに計画案の冊子を設置し、ホームページ等で周知を図ったが、結果として、住民から寄せられた意見については、「0」件であった。
- ・ その間、庁内関係課に対して、計画案の内容についての照会を行っており、関係課から寄せられた意見も参考にしつつ、計画案の一部修正を行った。

(2)第4次精華町地域福祉計画(案)について

事務局

- ・ 先ず、計画案の修正点については、表紙の次のページに「はじめに」として、杉浦町長のあ

いさつ文を新たに掲載した。

- ・ 次に、P.6 の「1. 統計指標」について、人口推計の差し替えを行った。今回は、国立社会保障・人口問題研究所が公表している人口推計を用いていたが、その推計値では、精華町の人口は徐々に減少することとなっている。今回、掲載した推計値は、約 39,000 人まで人口が増える想定で作成されているが、この推計値は、精華町第6次総合計画を策定した際に本町が作ったものである。人口増加の理由としては、現在、学研狛田地区の開発が進んでおり、企業誘致に加え、宅地開発も行われる予定であることから、ある程度、人口増加を見込んで推計値を作っている。総合計画は、本町の最上位計画であることから、人口推計の内容について統一を図るため、今回、総合計画のものを用いることとした。
- ・ 次に、P.12 の「(2)各圏域の概要」について、町の圏域図を掲載し、小学校区、中学校区、日常生活圏域の3つの圏域に分けた形で示しているが、前回掲載していた圏域図において、南稲八妻地区が川西小学校区に入っていることが判明した。本来、南稲八妻地区の通学区域は、一部を除いて精華台小学校区となっていることから、圏域図を修正し、差し替えを行った。また、介護保険法に基づく日常生活圏域については、令和6年度から B 圏域の一部が変更となる場合があることから、その旨を P.12 の一番下に記載した。
- ・ 最後に、P.65 から新たに「資料編」を追加し、地域福祉に関連する法律、本策定委員会の設置要綱、委員名簿、用語解説などを掲載した。

(3)答申(案)について

事務局

- ・ 答申書(案)については、本計画を進めていく上で、特に重点を置いて取り組んでいく必要のある項目を野村委員長と協議の上、記載している。
- ・ 一点目は、多機関の連携・協働による包括的な支援体制の整備について言及しており、近年、増加傾向にある地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応できるよう、高齢、障害、子育て、生活困窮などの各福祉分野の垣根を超えて、庁内の関係部署や地域の関係機関が連携・協働できる仕組みを整備することとしている。
- ・ 二点目は、地域福祉における長年の課題であるが、福祉ボランティアなど地域福祉の担い手が減少傾向にあることから、ボランティアの養成講座や研修の充実を図り、新たな人材の育成・確保に努めることとしている。
- ・ 三点目は、地域住民の抱える生活課題が複雑かつ多岐にわたることから、新たな課題に対応できるよう、本計画の進捗管理を毎年度行うこととしている。

(3)意見交換

野村議長

- ・ 今回は最後の策定委員会となることから、それぞれの委員からご意見を頂戴したい。

田中委員

- ・ 本計画については、今後、どのように進捗管理していくのか。
- ・ 答申書(案)に地域福祉活動における担い手の育成・確保についての意見が入っているのは有難いと感じている。
- ・ 本計画の中で、「アウトリーチ」という表現が何度か出てくるので、用語解説に付け加えてほしい。

事務局

- ・ 本計画の進捗管理の方法として、P.38 から P.48 までの具体的な施策における取組内容を基に、庁内各課が所管する関連事業を抽出し、それぞれの事業の概要、前年度の成果・実績、課題などを記載する調査シートを作成し、各課に対して進捗状況調査を実施する。その後、年に一度、地域福祉推進ネットワーク会議を開催し、調査結果を基に、各委員からご意見等をいただくといった形で進捗管理を行っていきたいと考えている。
- ・ アウトリーチの表現については、用語解説に追加させていただく。

鈴木委員

- ・ 私は、新年度における自治会の役員候補になっていた。実際、自治会の役員になりたがらない人が多いことから、くじ引きで役員を決めることとなった。
- ・ 自治会の加入率が下がってきていることを考えると、地域のことに関心のない人が多いのではないかと感じている。
- ・ 本計画には、「自治会活動の支援」ということが記載してあるが、これは非常に難しい取組であると思う。
- ・ 私の地域では、自治会長が1年ごとに交代するため、地に足がつかないといった状況をどのように改善すればよいか悩んでいる。

齋藤委員

- ・ 若い年代でも、地域活動などに関心を持つ人は多いのではないかと感じている。実際に、子育てや共働きなどを経験している人が多いため、福祉関連の問題には私たち以上に考えておられると思う。
- ・ 若い人たちの意見や考え方は、私たち以上に素晴らしいものがあるので、本策定委員会などの会議に是非とも委員として入っていただきたいと感じている。

奥委員

- ・ 本計画には、地域福祉に関する様々な取組が記載されているが、住民の方が困った時に相談できる窓口や連絡先の情報があつた方が、住民の方にとって、分かりやすく良いのではないかと。
- ・ 例えば、本計画に成年後見制度の利用促進に関する取組や成年後見センターの紹介が記載されているが、成年後見センターの連絡先が記載されていないので、連絡先も追加した方が良いと思う。

檀上委員

- ・ 先程、自治会の役員になる人がいないとの話があつたが、民生児童委員もなり手が見つからなくて困っている。
- ・ 以前、介護施設に入所されていた男性がお亡くなりになられて、その娘さんが、施設の職員の方にとても感謝されていて、自分自身もこれから何か人の役に立てるようなお手伝いができる機会があれば、ぜひやってみたくて仰っていた。その気持ちがとても大切なことで

あり、そのような想いを持たれているときこそ、行動を起こす良いタイミングであると感じている。

永井委員

- ・ 本計画では、障害者と呼ばれる人のことを、「障害のある人」という形で表現されているが、障害というのは、本人側にあるのではなく、環境との関係性などにおいて存在しているものであるという観点から、障害のある人と書かれているので、障害分野に携わる関係者としては、大変嬉しく感じている。
- ・ P.36の「④企業・団体等」において、社会福祉法人の地域における公益的な取組が努力義務と記載されているが、以前、齊藤裕三委員から「義務ではないのか」とのご意見があったため、私も調べてみたが、「責務」であるとして書いてあった。この点をもう一度、事務局で調べていただいた方がよい。
- ・ 私が所属している社会福祉法人では、人材不足に悩まされていて、地域における公益的な取組までは至っていないのが現状である。しかし、私自身、社会福祉法人は福祉サービスを提供する以外にも、何か担うべき役割があるのではないかと思いつけているところである。

早樫委員

- ・ 先日、精華町社会福祉協議会で福祉避難所の開設訓練があったので、少し見学させていただいた。精華町は災害が少ない地域であるが、災害発生時には、福祉的なケアが必要な人の支援というものがとても重要になってくるだろうと改めて感じた。

林委員

- ・ 私自身は毎回、自治会の立場でお話させていただいているが、私の住んでいる新興住宅地は自治会に加入されている人が半数以下になってきているのが現状である。
- ・ 高齢になった人は、自治会のお手伝いができないといった理由で退会する人もいる。
- ・ 精華町として、自治会に加入することを促すような条例などを作ってもらえれば、もう少し自治会に対する住民の考え方も変わってくるのではないかと。
- ・ 私自身は周りから自治会長をやってくれと頼まれたら、いくらでもやろうと考えている。その代わりに周りの人も協力はしてほしい。
- ・ 精華町も自治会のあり方について、もっと深く考えてほしい。

松本委員

- ・ 先日、まちづくり協議会として、防災アドバイザーを招いて、防災に関する研修会を行った。我々企業としては、災害時には被災者支援などに協力したいと考えている。但し、土日祝日、お盆や正月というのは、誰も出社していない会社が多いので、休みの日に災害が起きても対応はできないが、それ以外であれば出来る限り協力したい。
- ・ 私自身は他県の新興住宅地に住んでおり、40代の頃から地元の体育振興会でボランティアとして事務局を担っている。しかし、60代になった今、新たな担い手が見つからず、地域福祉の人材育成と言われるが、人を見つけること自体が非常に難しくなっている。
- ・ 若い世代を引き込むためには、レクリエーションなどを通じて人材の掘り起こしに向けた仕

掛けが必要である。色んな形で工夫していかないと若い世代が来ないし、アクションプランを緻密に組み立てないと人材確保は難しい。

野村委員長

- ・ 松本委員のご意見は、人材確保や育成という仕組みを、専門職や非専門職に関わらず、どのように実現させていけるかという問題提起であったと思う。
- ・ 今回の計画はあくまでも目標に過ぎず、現実とのギャップがある中で、年単位でアクションプランをどのように設定していくのかという大きな宿題を頂いたので、今後の計画の推進に活かしていきたいと思う。

山本委員

- ・ 私自身は10代の頃から地元の神社の氏子を務めていた。昔は、子どもであっても何らかの形で地域の役を担っていることが多かったが、時代の流れか、今は高齢者が中心となって地域の役を担っており、しかも、同じ人に役が集中する傾向がある。

野村委員長

- ・ 私は、適正飲酒について個人的に研究しているが、最近、お酒を飲んでよいという国の適正飲酒のガイドラインが変更となり、適正飲酒の分量が増加した。これは、酒造業者にとっては良いことかもしれないが、その一方で、アルコール依存症などで苦しんでいる人たちもいる。
- ・ お酒を我慢しないと身体に悪影響ということで、ガイドラインに対するパブリックコメントが非常に多く集まった。様々な関係団体が、自分たちの意見を国に届けるため、ひたすら文章を練り上げており、私自身もその一員として参加していた。
- ・ 今回、本計画に関するパブリックコメントが無かったというのは、意見募集の方法にもっと工夫が必要であることを改めて感じさせられたと同時に、地域福祉計画というものが、住民にとってはまだまだ遠いところにあり、躍起になって意見を伝えるといった実感が持ててないのではないだろうか。林委員のお話にあった自治会の実態などをお聞きして、改めてそのように実感した次第である。
- ・ 地域福祉という実感が持ちにくいものを、新たな計画で進捗管理をしながら、住民にとって地域福祉が我が事になっていくよう、委員の皆様の協力を得ながら計画を推進していきたいと思うので、これからも引き続きご意見等を頂戴したい。

3. その他

- ・ 委員の皆様には大変ご多用の中、地域福祉計画策定のために全4回にわたり本策定委員会にご出席・ご議論いただき、厚くお礼申し上げます。計画書が出来上がり次第、郵送にて配布させていただきます。委員の皆様への報酬については、本策定委員会終了後、振込にてお支払いさせていただきます。
- ・ 本日で、本策定委員会は最後となり、閉会後は、野村委員長から杉浦町長へ答申書をご提出いただく。